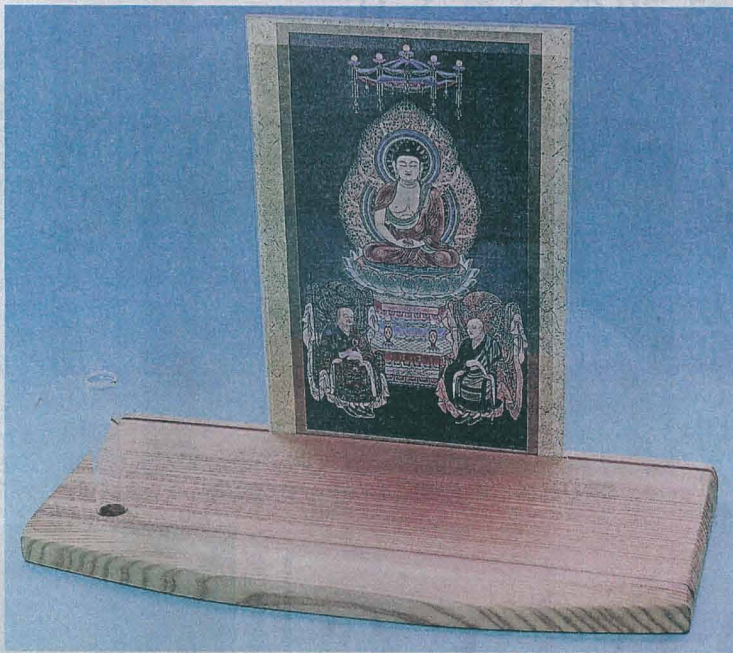


福井の木材業者運動に全国の高校生ら協力

被災地遺族に

「仮設仏壇」製作

避難先でも、故人を弔えるように。福井県の木材業者が、東日本大震災の遺族向けに「仮設仏壇」を無償で作る運動を始めたところ、予想を上回る要望が殺到。長野県内をはじめ各地の工業高校の生徒らも協力の手を差し伸べ、お彼岸に向けて、善意のフル生産が続いている。



被災者向けの仮設仏壇「メモリアルボード」。台座の左が一輪挿し、奥が遺影を飾るアクリル板だ

発案者の田中保さんは、福井県越前市で材木店を営む。「木の専門家なので、木材で被災地の方々に何ができるかを考えた」と動機を明かす。仏壇は、きれいに加工された杉の台座（長さ30センチ、奥行17センチなど複数のタイプ）に、小さな花瓶と、遺影を挟むアクリル板が飾れるシンプルな作り。写真立てとしても活用できるように「メモリアルボード」と名付けた。

「お盆に間に合わせよう」。地元で工業高校の生徒と二緒に作った50セットを7月上旬、岩手、宮城、福島各県の寺院などに届けると、すぐに大量の追加依頼があった。福井県木材組合連合会に協力を求め、本格的な生産に入った。メモリアルボードを梱包した箱の中には、「無理をなさらずにお過ごしください」（敦賀工業高校3年）「少しでも心の支えになるように一生懸命

お彼岸前に 長野工・池田工高も準備



「メモリアルボード」を作る千葉県立市川工業高校の生徒たち＝千葉縣市川市

作りました」（同1年）といった製作者の手書きのお見舞いメッセージも添えられている。

「特に高校生からのメッセージに励まされるようです」。福島市の仮設住宅でメモリアルボードを配った常田寺（同市）の住職、阿部光裕さんは続ける。「自然災害とはいえ、仏壇が壊れてなくなった人はみな、先祖に申し訳ないという気持ちを抱えています。被災の苦しみの中でどれだけ救いになっただか、計り知れない」。

木材組合連合会に届いた依頼は現在、3千を超え、今後も増えていく。福井県内の業者では人手が足りなくなったため、木工の作業場を持つ各地の団体に呼び掛けたところ、千葉、大分各県の工業高校、地元の大学からも協力の申し出があった。長野県内では長野工業高、池田工業高の建築科が準備中だ。3千円ほどの材料費は、田中さんが負担している。



本せとんの直「さくつりめるの直」さんお見舞いメッセージも添えられています。

同連合会は、ボランティアに協力してくれる団体と、材料費にあてる寄付金を募っている。寄付の振込先は、福井銀行板垣支店（普通）60144861、口座名「県木連東日本大震災協力資金」。問い合わせは同連合会、0776・35・50063。

私の声



1968（昭和43）年に46歳で自動車運転免許を取得してから43年になります。おかげさまで無事故無違反で過して来られました。優良運転者免許証も5回いただきました。車は私にとって生活必需品であり、手放すことはできません。買い物に、病院に、ゴルフにと、大事なパートナーを考えると、自分の人生が大変ことになるばかりでなく、周りの多

ともに衰えを感じ、運転中はることが時たま生ずるようになってきた。記録上でも高齢者の事故がており、心せねばと思っっているです。

7月の高齢者講習会の際も記

えにし

孫娘との日々

夫は昨年暮れ、大掃除をし私と昼食を取った後「ちょっと昼寝しようかな」と言ったり、天国へ旅立ってしまった。今年の新盆が大勢がお参りに来てくださった。娘一家も部活に忙しい高校生を孫娘を残し、小学6

年の孫娘を連れ「みんなが一緒に寝起きし続ける1週間泊る日、切符は自員さんを買って優しそうなお嬢し、車掌さんに人旅なのでお願いされたけれど、車細いことかと思

